

向島、姪島におけるドブネズミ対策実施状況

1. センサーカメラによるネズミ類生息状況調査

(1) 向島

向島におけるセンサーカメラによるネズミ類のモニタリング調査は、環境省により 2020 年 12 月～2024 年 3 月まで実施されており、島内 20 地点にセンサーカメラが設置されている(図 1)。今年度からは東京都が調査を引き継ぐとともに、センサーカメラの設置密度を高めるため、今年度中に 15 台のセンサーカメラを追加設置する予定である。また、冬季等、島に長期間上陸できない場合に備え、即時的にデータの収集が可能な SIM カメラを 3 台設置する予定である。

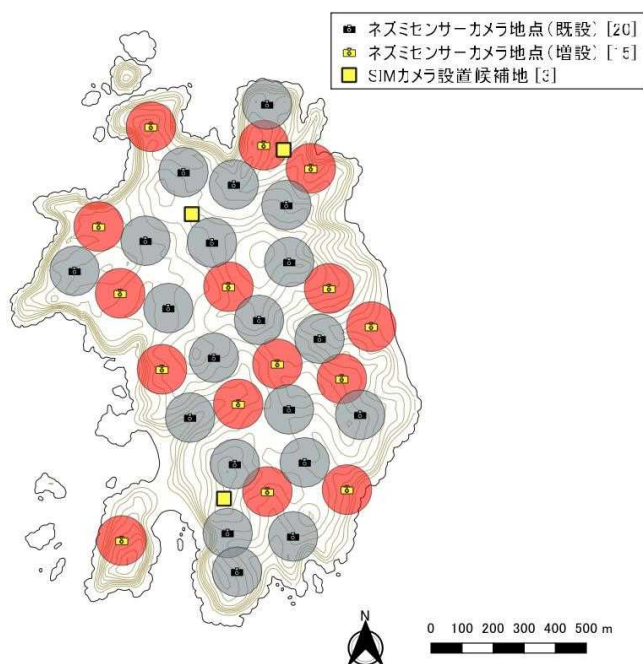


図 1 向島におけるセンサーカメラ設置地点

2024 年 6 月までに回収されたデータによるネズミ類の撮影率の推移(月平均)を図 2 に示す。2023 年 8 月以降に撮影率の急激な増加がみられていたが、2024 年 1 月以降撮影率は減少し、50 枚/100 カメラ日以下の値で推移している状況である。ただし、春季にかけて撮影率が徐々に上昇しているため、2022 年及び 2023 年と同様に夏季にかけてさらに撮影率が上昇しないか注意が必要である。

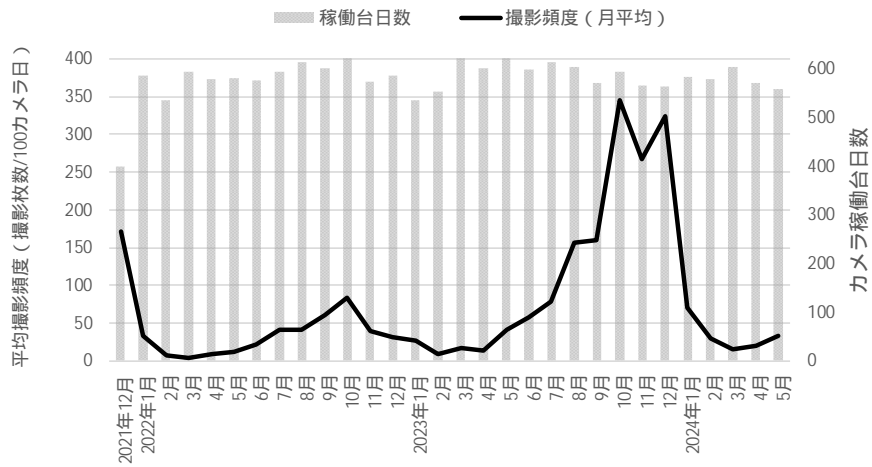


図2 向島におけるセンサーカメラによるネズミ類の撮影頻度（月平均）の推移

(2) 姪島

姪島では2024年2月に37台のセンサーカメラを設置し、モニタリング調査を実施している。2024年7月までにデータ回収が行われている。なお、向島と同様に今後SIMカメラを3台設置する予定である。

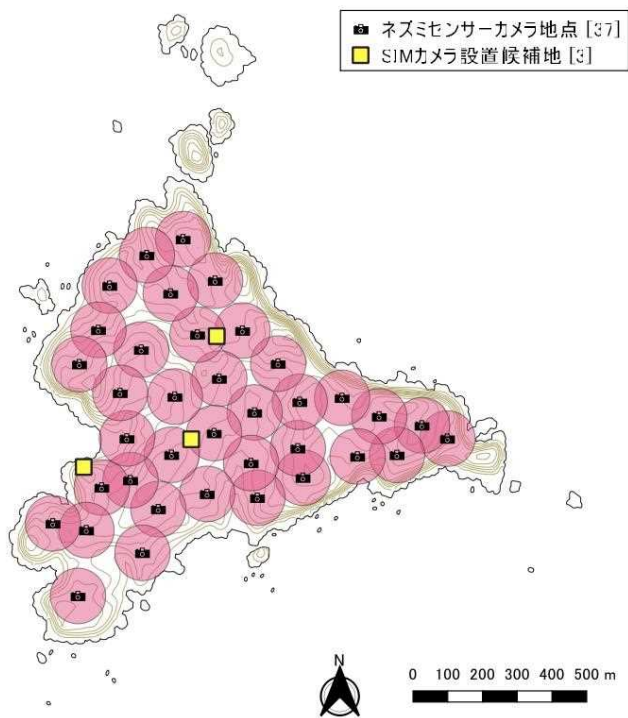


図3 姪島におけるセンサーカメラ設置地点

2024年2月1日から4月23日までに回収されたデータによるネズミ類の日毎の撮影率の推移を図4に示す。撮影率は100枚～200枚/100カメラ日程度の値で推移している。

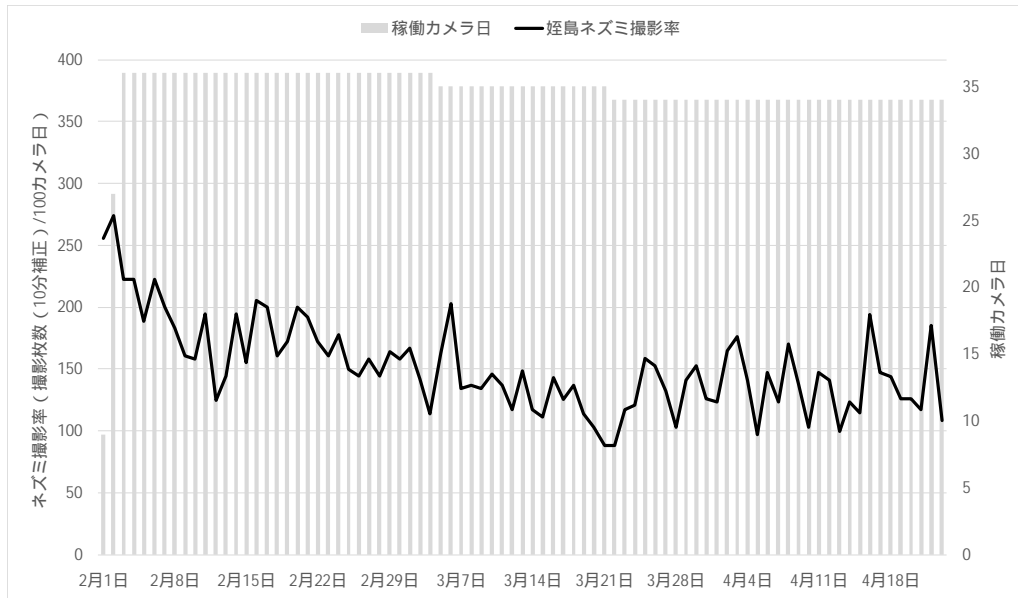


図4 姪島におけるセンサーカメラによるネズミ類の撮影頻度の推移

2. ベイトステーションによる殺鼠剤散布

(1) 向島

向島では林野庁や環境省により、2020年12月～2024年3月の期間、ベイトステーション(以下、BS という。)を用いて殺鼠剤によるドブネズミの低密度管理が行われてきた。2024年4月以降は、東京都によりBS対策を実施している。なお、2024年4月以前の対策ではドブネズミの低密度化が十分に図られなかったことから、2024年4月以降は、BSを140台増設し、南西半島部を除くほぼ向島全域を対象に対策を実施している(図4)。

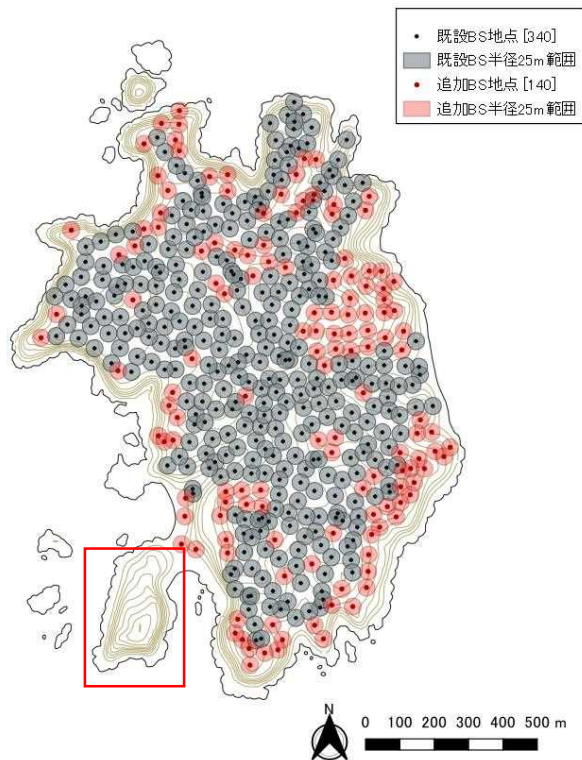


図4 向島におけるベイトステーション設置地点
南西部の半島（赤四角）には全島対策実施時に BS を設置する予定

BS の殺鼠剤充填は 2024 年 4 月及び 6 月に実施し 300g/台を補充した。なお、5 月にも作業を実施する予定であったが、海況不良や宿泊施設確保の問題により実施できなかった。BS の作業時には一部 BS（センサーカメラ前に設置された 20 台）について殺鼠剤の残量を記録した。

点検回毎の殺鼠剤の残量を図 5 に示す。4 月は補充量に対して 50%程度の残量が中央値であったが、6 月には中央値が 75%程度となり、4 月よりも残量が多くなる結果となった。一方、前項のとおりセンサーカメラによる撮影率は 4 月から 5 月にかけてやや増加しているため、現状から BS 対策の効果が十分に得られているかを判断するのは困難である。

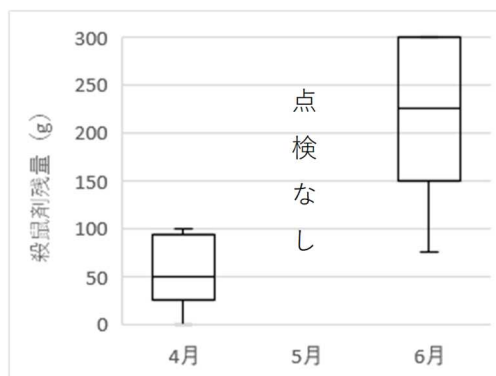


図5 向島におけるベイトステーションの殺鼠剤残量

残量点検時の前回充填量が4月は100g(3月充填)、6月は300g(4月充填)であった

(2) 姪島

姪島では今年度実施予定の全島対策にむけて、304台のBSを2024年7月までに設置した。設置地点を図6に示す。今後、全島対策実施時に手撒き散布と併せてBS内に殺鼠剤を充填する予定である。

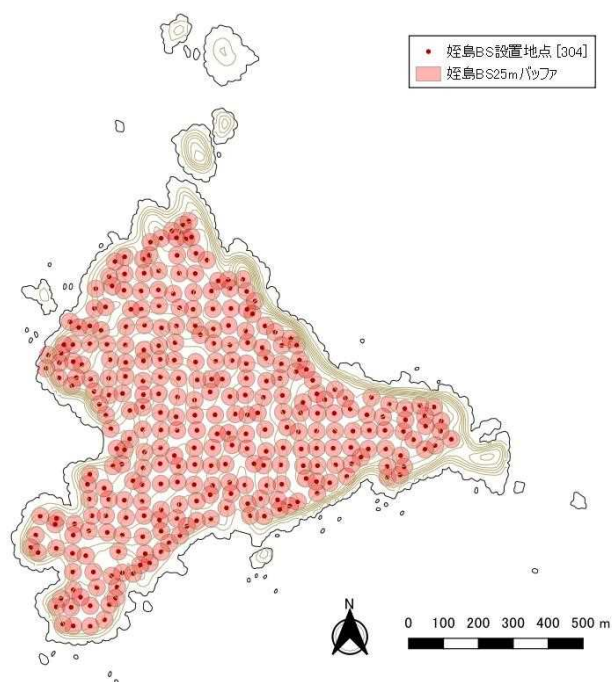


図6 姪島におけるベイトステーション設置地点